



「子育て」は「自分育て」

息子が大学院を卒業し荷物を持ち帰り、翌日には就職先の東京に発つ。私も娘も仕事。時間がないから彼の卒業と門出のお祝いはレストランで、と娘と相談していました。ところが…デザートの際に花束が!? お皿には「お母さん、お疲れ様!」とあり、娘からのプレゼントに息子の支払い。なんと二人は、子育て&教室一区切りの私にサプライズを企てていたのです。完璧やられました~(>_<)

正直言って、私には「私が子どもを育てた」という感覚はありません。私が自分の仕事や学びに一生懸命の間に、あの子たちが育ってくれたのです。

私は泣くし、怒るし、怒鳴るし、まったくもって賢く優しい母ではありません。

でも、改めて考えてみました。胸張って言えることもあるはず、と。

敢えて言うなら、決して問題から逃げない覚悟でいた、ということでしょうか。

私はいつも子どもたちに言ってきました。「何か困ったことがあったら言ってな。一緒に考えよ。それでもわからんだら、私には相談できる人がたくさんいるからな」。相談できる人がいる。そう、私の子育ての一番の支えでした。

でも、まずしたことは、子どもの話をよく聞くこと。その時点で解決に向いていくことはよくありました。

腹が立って感情が高まってくるとき、ひと呼吸ついて、タイミングを見て話を聞く。確認しながら聞く。教室でも他の仕事でも、人とコミュニケーションをとるのも同じことです。ただ、他人であれば、いやなときは会わなくても済みますが、子どもはそうはいかない。また、つい子どもには甘えて感情をぶつけがち。だからこそ、子育ては本当に「私」を育ててくれたのだとつくづく思うのです。

そして、子どもたちの存在が、どれほど私の支えになってくれたことか。「愛」とは縁遠いと思っていた私の中に「愛おしい」という感情を培ってくれました。やはり、「子育て」は「自分育て」。子どもが授かったことにあらためて感謝です。

〒514-0821 三重県津市垂水 1200-7

★豊吉晴子★S.L.S. すぎな★

Tel : 059-222-9077

Fax : 059-226-3303

E-mail : haru_sugina1044@wave.plala.or.jp

ホームページ : <http://www.sugina3.com/>

ブログ : http://blog.goo.ne.jp/s_l_s_sugina/



「好きなこと」と「基礎学力」が、道を開いた！

● 自分のペースでやり通す！

今年も受験シーズンが終わりました。S.L.S. すぎなでは、受験対策も一人一人、見事に違います。

ただ、この14年間で毎年感動することがあります。S.L.S. すぎなである程度やってきた子は、この時期、教室で相談しながら、自分に合ったことを自分の家で自分のペースで、やり通すことができるのです。

これは、**基礎学力**（読み書き計算だけでなく、自分に必要なこと、できそうなことを自分で決める。決めたことをする。自分の変化を見る、など）をつくうにと積み上げてきた成果だと思えます。

H君は、4年間ロボット教室に名古屋の科学館まで通い、ロボットのサッカーの試合で、全国大会にも出場することになっていました。危険物取り扱いの資格も持っています。H君の希望は、津工業高校の電子科。彼にベストな方法は、彼の経歴を生かすことができる前期試験。しかし、前期試験には、面接の他、主要教科が数学。数学はS君の最大の苦手ときています。

H君は4-9（わり算の筆算）をしていました。週4日算数、国語、英語3枚のプリントをするようになっていました。

前期試験の問題を見て、「大丈夫！この問題ならできるようになる」。私は確信を持ちました。

過去の試験問題はもちろん、らくだのプリントや受験問題に合せて私が作った問題をH君は、自分から「やる」と言って、どんどんやりました。その姿は、私の想像以上。

そして、彼は合格しました。

彼はどんな感覚で取り組んでいたのでしょうか？

● 「できるところから、少しずつ」だから、できた。

晴子：受験前、中学のプリントもやって、1、2年でできなかったことができるようになったよね。

H君：うん。プリントもそうやったけど、できるところから少しずつやっていたから、続けることができ、力になっていったんやと思う。

晴子：ここに来る前は、宿題の出る塾には行かないつもりだったって、前に言っていたよね。

H君：そう、家では絶対に勉強はしなかった。

晴子：なのに、プリントも続けるようになったし、受験勉強も自分でやっていたよなあ。

H君：プリントで、やる時間を決めたり、ペナルティをつけたりしながら、勉強のリズムがついていたからやろなあ。

晴子：なるほど。他にも今回の受験勉強で、プリントでやってきたことが役立ったなあって思ったことあった？

H君：うーん。プリントで集中力がついてきて、学校の課題もできるようになって、また集中力が上がったような気がする。

晴子：そっかあ。ほんとプリントやってきてよかったなあ〜。よく続けたよ。すごいよ！

しかし、この度の彼の合格は、明らかに彼が続けてきたロボットの経験が効いているのです。そこで、「そもそも、どうしてロボットを始めることになったの？」とS君に聞くと「???あれ、なんでやったやろ…」なーんて言っています。(笑)

そこで、お母さんに聞いてみました。

● 「つくる」のが好き パソコンに慣れ親しむ 勉強がしんどそう

あの子は小さい時から、「つくる」のが好きな子でした。それから、お父さんのパソコンをよく触っていて、ジュースをこぼしてしまったんです。お父さんは自分が邪魔されないようにとそのパソコンをあの子にあげたんです。だから、3歳から自分のパソコンがあって、パソコンを使った電話とか絵本を見るようなゲームなどで、パソコンに親しんでいました。

私は「この子には、学校の勉強はしんどそうだなあ」と思ったので、好きなこと、打ち込めるものを見つけたいと思っていろいろ参加してみました。

ある時、自分たちでロボットを作って、パソコンでプログラミングして動かすという教室に行ってみると、気に入って3回参加したのですが、その企画がなくなってしまったんです。その後、名古屋の科学館のロボット教室を見つけて、月に2回通い始めました。それから、ロボットが少しずつレベルアップして行って、気づいたら4年でした。

**** * * * * * * * * *

「好きなこと探し」は、いつでも、どこでも尊重されるもの。しかし、好きなことだけでは、進路選びとして通用しないのです。「基礎学力」があれば、好きなことも生かされる。そして、手遅れということはない。

それを彼は教えてくれました。

彼が好きな道を見つける手助けをし、さらに、基礎学力を大事にするS.L.S. すぎなに彼を連れてきてくれて、すぎなに通った4年間、彼のアッシーになったお母さんに私は拍手を送りたいと思います。